

産業構造審議会 商務流通情報分科会（第3回）-議事要旨

日時：平成28年5月19日（木曜日）14時00分～15時00分

場所：経済産業省本館17階第1～3共用会議室

出席者

委員

村井委員長、岡地委員、國井委員、久原委員、杉本委員、知野委員、三上委員、水嶋委員、三輪委員、唯根委員

事務局

安藤局長、住田審議官、荒井課長、佐野課長、三浦 章豪課長、渡邊課長、江崎課長、西村課長、木村参事官、野村課長、三浦 聡課長、坂本課長、安居課長、角野室長、白井調整官、瓜生室長、熊川室長、伊藤室長

議題

1. 最近の商務流通情報政策の状況について

議事概要

事務局から「第四次産業革命に向けた商務情報政策局の取組」及び「商務流通分野における最近の取組」について説明を行い、続いて討議が行われ、委員より以下の意見が出された。

ITの利活用

- IoT、ビッグデータ、AIを新聞でも取り上げているが、一般の方にとっては具体的イメージがつかみにくい。IoT、ビッグデータ、AIによりどのような効果が得られるのか、「IoT推進ラボ」などを通じ、具体事例をPRしていくことが重要。また、IoT、ビッグデータ、AIへの期待は高い。具体的議論が進むことに期待。
- ドイツのインダストリー4.0では、公的研究機関や大学などが中小企業を支援している。中小企業向けの施策は地方創生としても重要。
- ビッグデータを活用したサービスを実現するためには、生データの蓄積ではなく、加工データにアクセスできることが重要。一部の企業に留まらず、様々な企業が加工データを提供する事業へ参入することに期待。
- 電機業界の場合、従前、ユーザーのデータは量販店までしかこなかったが、IoTにより、ユーザーとメーカーが直接つながる。メーカーにおいてユーザーの機器の使い方や状態などが即座に分かれれば、新たなサービス提供につなげることができる。
- IoTは産業構造の変革につながるが、IoTプラットフォームを作っただけでは上手くいかない。サプライチェーンを変革すること、そこにいかにIoTが貢献できるかが重要。IoTのインフラ整備とともに、現状の問題点、構造変革の方向性を産業界で共有していくべき。
- データ収集が進む中、センサー産業の発展が期待される。もの、人の状態を効率的に把握するためには、音声認識技術などを活用することで、人とIoTシステムの間での良好なコミュニケーションを築くことが重要。結果として、IoTによる効率化が進む。
- 自分のデータがどのように活用されているか、見える化することが重要。

バイオテクノロジー

- バイオテクノロジーの技術革新により産業構造が大きく変わる可能性。産業構造の変化に対応できるよう、規制・ルールづくりに日本全体で取り組むことが重要。
- 米国に比べて日本にはバイオインフォマティクス人材が少ない。現状、米国など海外で研究した方が効率的と言われる中で、人材育成を考えることも重要。

セキュリティ対策

- セキュリティは国家間戦争の場になりつつある。セキュリティ人材育成は重要だが、民間の取組だけでは限界がある。国家戦略を担う組織をつくり、戦略的に人材を育成・雇用するなど対策を強化することが重要。
- セキュリティ対策はネットワークの分離、ウェブ閲覧の無害化という根本策にシフト。
- 米国では大統領令によりクレジット決済のIC化を急速に進めた。米国のセキュリティ強化で日本でのカード不正使用額が増えることを懸念。現在、クレジット取引セキュリティ協議会において、業態ごとに対策を検討し、実行フェーズに移行しているところ。カード情報の非保持化や、決済端末及びカードのIC化など、関係業界と協力しながら実現していく。急増するなりすまし被害も対策をまとめたい。
- クレジット決済のセキュリティ対策だが、IC化だけでは不十分。カード情報はPOSレジ端末から抜き取られており、POSシステム全体で対策を検討することが重要。

関連リンク

[商務流通情報分科会の開催状況](#)

お問合せ先

商務情報政策局 情報政策課
電話：03-3501-2964

最終更新日：2016年5月24日